

関係機関長 殿

病 防 第128号
令和2年5月 1日
沖縄県病害虫防除技術センター所長

病害虫発生予察注意報について

令和2年度 病害虫発生予察注意報情報 第2号を発表しましたので送付します。

令和2年度 病害虫発生予察注意報 第2号

1 作物名 さとうきび

2 害虫名 カンシャコバネナガカメムシ

3 発生地域 大東諸島

4 注意報発令の根拠

- (1)南大東村におけるカンシャコバネナガカメムシの茎当たり寄生虫数(成虫+幼虫)の平均±標準偏差は 45.7±29.2 頭で、要防除水準 20 頭の約2倍であった。
- (2)北大東村病害虫防除員の報告によるとカンシャコバネナガカメムシは多発生であった。

表1 南大東村におけるカンシャコバネナガカメムシ発生調査結果

地区名	幼虫(虫数±s.d.)	成虫(虫数±s.d.)
北1	72.4±15.4	0.0±0.0
北2	38.6±6.3	0.8±0.4
新東1	97.8±36.2	0.0±0.0
旧東1	58.4±25.0	0.2±0.4
旧東2	33.2±8.2	0.0±0.0
南1	23.8±12.5	0.2±0.4
南2	23.4±6.3	0.0±0.0
池之沢1	12.8±4.8	0.0±0.0
池之沢2	54.2±20.0	0.0±0.0
在所1	41.0±10.2	0.0±0.0
合計	45.7±29.2	0.1±0.3

※1は場当たり5茎を刈り取り、寄生成幼虫数をカウントした。

5 発生生態

- (1) 幼虫、成虫とも葉鞘や梢頭部に潜み集団で吸汁加害、葉鞘の隙間に20卵前後産卵する。
- (2) 成虫は翅が長く飛ぶことが出来る長翅型と翅が短く飛ぶことが出来ない短翅型の2つに分けることが出来る。長翅型は高温・高密度で出現し、移動分散を行う。
- (3) 概ね4～6月が第1世代、7～8月が第2世代、9～10月に第3世代が発生する。
- (4) 11月以降に成虫が産む卵は休眠し越冬する。休眠卵は3～4月に一斉にふ化し第1世代を形成する。
- (5) 天敵にカンシャコバネナガカメムシタマコバチ(卵寄生蜂)、ツヤオオズアリ、エサキトゲアシハナカメムシ、クモ類がいる。

6 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期(4～5月)に虫密度が1茎当たり20頭を超えている場合に直ちに行う。
- (2) 天敵に配慮し、虫密度が茎当たり20頭以下の場合には薬剤散布を避けることが望ましい。
- (3) 1回目の株出、および前年夏植で被害を受けやすいため、特に注意する必要がある。



図1 カンシャコバナネナガカメムシの成虫（短翅型）と幼虫



図2 カンシャコバナネナガカメムシ寄生状況と被害葉（黄化）



図3 カンシャコバナネナガカメムシの多発生ほ場

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL: (本所)098-886-3880、(宮古駐在)0980-73-2634、(八重山駐在)0980-82-4933

ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>